

2007年夏の大雪山

昨年の大雪山行の印象が良かったせいか、今年も行きたいということで、ほぼ同じメンバーで出かけてきました。歩くのが大変で懲りたという人が一人抜け、あと二人増えて、総数9人で出かけることになりました。

当初、銀泉台から入る予定でしたが、登山口の小屋が去年で閉鎖されたとのことで、高原温泉からのルートに変更しました。

旭川空港から層雲峡まではレンタカーで、後はタクシーで高原温泉に入り、温泉に荷物を預けて沼巡りにでかけました。このコースはヒグマのテリトリーにあるので、下山は16時までと決められています。もう昼を過ぎていたので、周遊コースはとれず、途中の緑沼で引き返すこととなります。入り口のゲートのある小屋でヒグマに関するレクチャーを受けましたが、前日もこのコースに現れていたようです。私自身は、この辺りも含め、随分大雪には入っていますが、未だ一度も遭遇していません。緑沼までのコースは雪の残る所もあり、そこにはまだ水芭蕉の群生を見ることができました。

雨にも殆ど会わず、エンレイソウやエゾリュウキンカ、サンカヨウなどの花を楽しみながら、エゾ松、トド松に囲まれ、ひっそりたたずむ幾つもの沼を巡って、16時丁度下山することができました。

高原温泉は、大雪の中でも最も奥まった地にある、一軒宿の宿で、その温泉は、自噴したものをそのまま使用しているそうで、私にもその泉質の良さが実感できるものです。

翌朝は早立ちし白雲小屋に向かいました。ゴゼンタチバナの群生する急な登りが終わると、チングルマ、エゾコザクラ、ヨツバシオガマなどの咲く第一お花畑となります。

第二お花畑は残念ながら雪の下で、その先のルートも残雪のため、ちょっとした岩場を越すルートになっていました。緑岳の近くで、ナキウサギの声が聞こえ、見上げると近くの岩の上にその姿を確認することができました。頂上に近づく頃から、青空も見え始め、次から次へと現れる高山植物をカメラに収めながらゆっくり歩いて、昼前に白雲の小屋までつきました。テントに3人が泊まり、残りは小屋に泊まることにしましたが、幸い、平日だったので、窮屈せずに寝ることが出来たそうです。翌日は、あの小屋に200人くらいが泊まったとのことで、一日違いでラッキーでした。テント場は、30張り位設営できそうな、岩の出っ張りもない平坦なつくりで、前にトムラウシと十勝連峰が広がる素晴らしいサイトにあります。午後は、高根が原へ散策を行い、ウルップソウとキバナシオガマの群落を見ることができました。

昨年の大雪山では、キバナシャクナゲ、チングルマ、エゾノツガザクラ、エゾコザクラ、イワウなどの大きな群落が印象的でしたが、今年は、前回気がつかなかった、ウルップソウとキバナシオガマの他にもエゾツツジ、エゾオヤマノエンドウなど、大雪に咲く花の種類の高さを実感しました。山の花って、やはり一期一会で、そのとき、その時で異なった顔を見せてくれて、いつ来ても新鮮です。

翌日は、これまで大雪でも殆どお目にかかれなかったような快晴で、遠く日高の山まで望遠できました。この日のコース北海岳、黒岳を越えて層雲峡まで下るメインのコースですが、一日素晴らしい展望を楽しむことができました。白雲岳へは男性3人だけで空身で往復してきましたが、360度の大展望で、こんな景色はそうそう体験できそうにありません。

起伏の少ない、大雪らしい山道を、花を楽しみながら昼前に黒岳の石室に到着。大休止で飲んだビールのおいしかったこと。勢いで桂月岳まで往復したほどです。黒岳を越え、ウコンウツギの咲く道を下ってリフトまで下るとそこはもうガスの中でした。

層雲峡の宿で山の汗を流し、翌日の飛行機で帰ってきましたが、大雪は何度行っても良い山だと、今回も実感しました。多分、また来年も行くことになりそうです。

齊藤 彰夫

日程： 2007.07.12-14

コース： 12日 羽田 - 旭川 - 高原温泉（泊） 午後は沼巡り

13日 高原温泉 - 白雲避難小屋（泊） 午後は高根が原散策

14日 白雲避難小屋 - 白雲岳 - 北海岳 - 黒岳 - 層雲峡（泊）

